

第 67 回大腸癌研究会 ガイドライン作成委員会 議事要旨

日時： 2007 年 7 月 5 日(木) 10:00 ~ 11:00
場所： 神戸ポートピアホテル 2F のじぎく

委員の交代

「ガイドライン(医師用)」作成委員長： 杉原健一 固武健二郎
「ガイドラインの解説」の作成委員長： 楠正人
任期満了： 杉原健一、望月英隆、亀岡信悟、澤田俊夫、渡邊昌彦
新委員： 渡邊聡明、板橋道朗、
坂井義治(解説担当)、上野秀樹(解説担当)

「医師用ガイドライン」アンケート結果の提示

次期改訂の参考とする、学会・講演等で引用するために、雑誌にアンケート結果を発表することを検討。
英文誌での引用に際し、当「ガイドライン」の英文タイトルを作成しておく必要性があるとの意見が出された。次回委員会にて検討。

ガイドライン概論

固武委員より、第 62 回日本消化器外科学会定期学術総会にて発表予定のスライドを用いて、ガイドライン作成についての概論が述べられた。

次期改訂に際しての基本的事項の検討

エビデンスレベルは、RCT が十分ないため、一般的なエビデンスレベルは低くなる。しかし、一般的なエビデンスレベルに合わせるのではなく、コンセンサス based の立場で、独自の推奨レベルを提示することが提案された。本文の形式は、Q & A 形式、textbook 形式などがある。「大腸癌治療の均てん化」というガイドラインの目的を考慮すると、初版同様 textbook 形式が適当か、との意見が示された。

「医師用ガイドライン」は 2 年後を、「解説」は 1 年をめぐりに改訂作業を進める。

ガイドラインの改定は永続的に続く作業であるため、改訂作業の運営支持組織の強化が必要との意見が出された。